

# 寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の“いま”を伝える情報誌  
vol.22



うどじんぐう  
鶴戸神宮宮司  
宮崎県神社庁 庁長

# 本部 雅裕

ほんぶ  
まさひろ

■ 宮崎県は神話の故郷であり、記紀に見られる多くの神々が県内の各神社に祀られています。中でも日南海岸国定公園にあり、山幸彦・海幸彦の神話の舞台としても知られる鶴戸神宮は、豊玉姫命のご出産の逸話によって古くから安産祈願の場所として、また昭和の時代には新婚旅行の目的地として多くの参拝者が訪れてきた人気の神社です。

近年はインスタ映えスポットとして若い世代にも認知され、平成29年には神社を含む地域一帯が国指定名勝となった鶴戸神宮では、その魅力を幅広い世代に伝えました。2000年の長きにわたって続いている歴史を後世に伝えていくため、地域との連携も積極的に進めています。

その取り組みと今後の展望について、平成28年に宮崎県神社庁長に就任された本部雅裕宮司にお話を伺いました。



本部 雅裕

昭和26年生まれ。国学院大学卒業後は鶴戸神宮に奉職。その後に国語科・社会科非常勤講師として教鞭も執る。平成20年より鶴戸神宮宮司。平成28年には宮崎県神社庁 厅長に就任。「小さな神社のお手伝いができるれば」と神職の知識・教養を高めるための研修会などで日々奔走する。実家である春日神社(宮崎県兒湯郡新富町)の31代宮司も務めた。

## 神話の時代から修験の地へ 信仰が歴史をつなげた

「鶴戸さん」と地域で古くから親しまれている鶴戸神宮には、神話の故郷、景勝地など、さまざまな魅力があります。

鶴戸神宮の御祭神は鶴鳩草薙不食尊、つまり神武天皇の御父君です。歴史的に見ると神代の最後に出でてこられた、そこから人の世が続くのですが、神代であって人の世、その接点における神様というものが鶴戸神宮の御祭神の一番の特徴だと思います。20世紀の知の巨人と言われたフランスの文化人類学者クロード・ルヴィニストロースが「神話で語られている出来事は本当にあったことだと自身思ってしまった」と、鶴戸神宮を訪ねた際の印象を語っています(『言葉と沈黙』江藤淳著・平成4年)。神話と歴史を厳格に区別する西洋の知識人が、神代が人の世へつながっていくという日本人の連續性を強調したことは、とても感慨深いものがあります。

当社は第10代崇神天皇の世に創建されたと言われていますが、その後、桓武天皇の時代に光孝坊快久といいう人が来られて荒れていたお山を再興し、鶴戸山大権現吾平山仁王護國寺の名を賜わりました。その時は天台宗で、その後真言宗に変わるのですが、真言宗の時代は「西の高野」と言われるくらい、参詣者、修験者が多かったと言われています。

神代から人の世へ  
重層的につながる信仰を  
伝え続けるために  
動いていく

現在の日南市全域と宮崎市南部を治めていた鉄肥藩は大阪の再替高法流善兵衛から資金の提供を受け、産業開発の一環として燈籠塔と紙の製造を計画した。事業の成功を祈念して善兵衛が奉納した石灯籠が境内近くにある

と、私自身思ってしまった」と、鶴戸神宮を訪ねた際の印象を語っています(『言葉と沈黙』江藤淳著・平成4年)。神話と歴史を厳格に区別する西洋の知識人が、神代が人の世へつながっていくという日本人の連續性を強調したことは、とても感慨深いものがあります。

当社は第10代崇神天皇の世に創建されたと言われていますが、その後、桓武天皇の時代に光孝坊快久といいう人が来られて荒れていたお山を再興し、鶴戸山大権現吾平山仁王護國寺の名を賜わりました。その時は天台宗で、その後真言宗に変わるのですが、真言宗の時代は「西の高野」と言われるくらい、参詣者、修験者が多かったと言われています。



現在の日南市全域と宮崎市南部を治めていた鉄肥藩は大阪の再替高法流善兵衛から資金の提供を受け、産業開発の一環として燈籠塔と紙の製造を計画した。事業の成功を祈念して善兵衛が奉納した石灯籠が境内近くにある

# 信仰は郷土愛を育てる。



未来のためにも、  
その流れを絶やさない

修驗道の信仰もあり、山伏がたくさん

来ていたようです。このように神話の時代を経て仁王護国寺があり、神社の本殿には神様が祀られている

という、重層的な信仰も鵜戸さんの特徴ではないでしょうか。残念ながら仁王護国寺の建物は昭和45年の大火で焼けてしましましたが、往時には本参道の両脇に12の宿坊もあったと言われています。つまりいろいろな信仰が重なり合い、歴史がつながっているのです。この重層的な信仰を伝え続けるために、私は動いていかなければと考えています。

## 民間伝承が信仰へ さらには郷土愛を生む

地域では神話が今でも広く知

られていて、鵜戸さん信仰が神社と地域をつなげていると聞きます。

都会のように毎日何10件も、とうわけではありませんが、歴史的に安産の神様として信奉されていますので、昔も今も、安産祈願の方はいらっしゃいます。この例だけを取つても、ここには神話がそのまま生きていると言え、それが鵜戸さん信仰の大きな柱ですね。鵺鷦草葺不合尊がお生まれになったいわれが民間信仰として生きているのです。豊玉姫命は安産だった、鶴の羽で屋根を葺き終わらないうちにお生まれになつたのでこの名前がついた、というのが今も伝わっています。興味深いのは、古事記や日本書紀での記載は限定的であるにもかかわらず、鵜

を育てています。何より若者がいない。3地区合わせると10人ほどです。新婚旅行ブームのあった昭和40年代、一時期神社と地域との心が離れたい時期がありました。それではいけないという反省に立ち、地域あっての神社、氏子さんあつての神社だという気持ちで今は活動しています。以前から敬神婦人会が形だけあったのですが、もっと参拝してもらいたい歴史の中でいつしか、運玉を投げ入れる岩を亀石と言います。長い歴史の中でいつしか、運玉を投げ入れる岩は豊玉姫命が乗つてこられた亀だ、という伝承となってきたのです。やがて年間を通じて子供たちが運玉を造つてくれるようになり、地域の思い出が信仰と一緒になるという、非常に珍しいケースとなっています。この記憶が、都会で暮らしても故郷を大切に思うという郷土愛をも生み出しているのです。

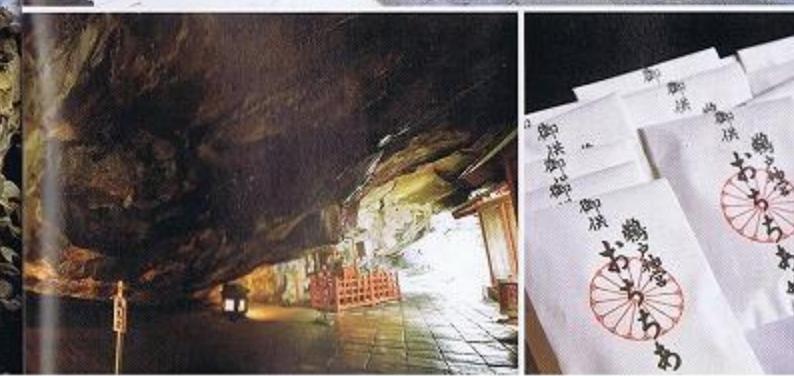
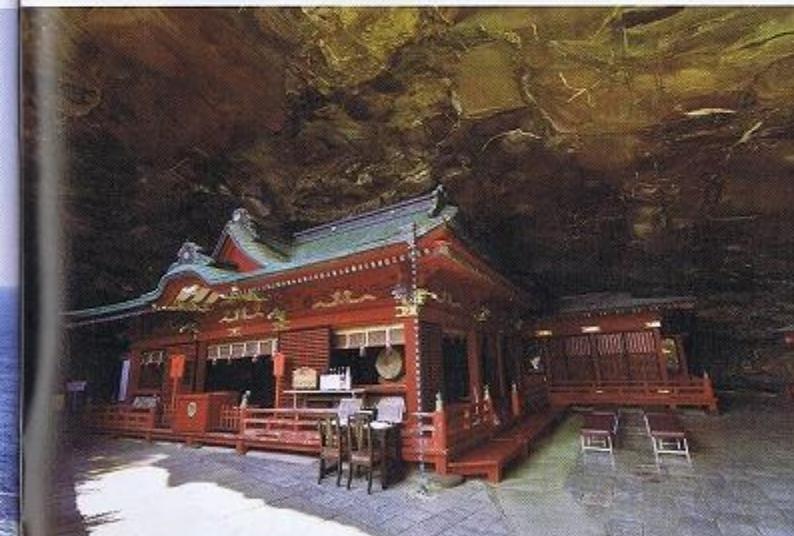
## 地域との結びつきを 新たに作り出していく

その一方で、全国的に地方での人口減少が叫ばれる現在、鵜戸神宮のある地域でも同じような悩みがあると思います。そのため進められていることはありますか？

鵜戸神宮周辺には3つの地区がありますが、少しづつ人口が減っています。そこで、全国的に地方での人口減少が叫ばれる現在、鵜戸神宮のある地域でも同じような悩みがあると思います。そのため進められていることはありますか？



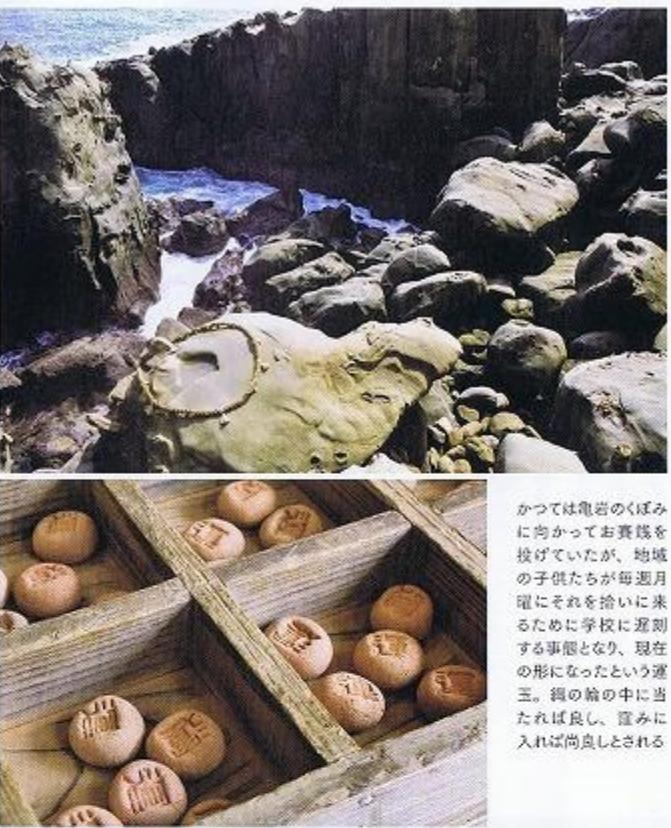
日向灘に面した断崖の中腹に岩窟があり、そこに本殿が鎮座する。本殿までは石段を下って行くが、腰筋に広がる要色は息を呑むほど美しさで、参拝者を魅了し続けてきた



上／洞窟内に建つ朱塗りの本殿。屋根を銅板で保護しているが、損害と湿気の対策が急務。しかし県指定文化財であるため、新たな技術の導入などが課題となっている。  
下／伝承にある「お乳岩」が本殿裏に。そこから滴り落ちる水でつくった「おちあめ」も古くから知られた授与品

また、若者が鵜戸神宮職員として奉職するようにもなってきていました。そのような若者には、地元に密着していくためにも要請があれば消防団に入るようアドバイスします。消防団員として活動する日は出勤扱いにするなど神社としてもバツクアップし、神職をどんどん地域へ出すようにしています。正直なところ、正月は消防団の出初式も

# 歴史を見つめ直し 信仰・文化の伝承、 そして観光振興へ



かつては龜岩のくぼみに向かってお賽錢を投げていたが、地域の子供たちが毎週月曜にそれを捨てるために学校に遅刻する事態となり、現在の形になったという運五。綱の縫の中に当たれば良し、落込みに入れば尚良しとされる

## 神社の歴史を再発見し

### 整備して観光振興へ

平成29年に国指定名勝となり、信仰を守り、伝えていくことが一層重要となっていました。

指定の理由は自然環境絶景の地ということ、重層的な信仰、そして地域がずっと見守って育ってきた点ででした。ですから指定されたのは当社だけでなく、当社を含む海岸線一帯となります。地域が鵜戸さんに対する信仰を誇りに思う気持ちを認めていただいたということで、地域の人にも喜んでいただけました。宮崎県としては戦後初の指定となりますので、県民にとっても大きなニュースだったと思います。

しかし、喜んでばかりはいられま

あるため神社は手薄になり大変ですが、何より、若者が生き生きとしますから。さらに、子供の神職にはPTAの役員にも積極的に就くよう勧めています。地域では役員のなり手が不足しているようですが、そのままにしておくと地域が廃れていくため、神職が少しでもお役に立てればと考えてのことです。

鵜戸神宮は日南海岸の一一番北にありますから、私は当社が県南観光の入り口だと考えています。まず鵜戸神宮に来ていただき、そこから県南などさまざまな方面へ観光の動線が伸びていくイメージです。そう考えると当社は立地的に重要な場所となります。観光の動線を活性化していくためにも、当社からの情報を積極的に発信していくことが大事だと思います。

また、本参道沿いの宿坊があつた場所を整備することを、宮崎県や日本市はもちろん、文化庁にも働きかけています。現状は山になつて石垣だけが残っている状態ですが、発掘調査をしてみると山伏の法螺貝が出てくるかも知れませんし、もっと重要な修驗の法具なども見付かるか

も知れません。新しく建物を建てるのは難しいかも知れませんが、長い歴史を感じてもらう学びの場を造るだけでも大切なことではないかと感じています。

## これから世代へ 信仰を伝えたい

鵜戸神宮のこれまでの姿は長い歴史の中での信仰そのものなのです。それを伝えるために、山全体の整備もお考えだとか。

参道周辺だけではなく周囲の山林も往時の姿に戻して行かなればなりません。現在当社の周囲は杉山になつてますが、明治以前はタブや楠が茂る山だったようです。タブや楠は根がしっかりと張りますので、山の植生をそれらの木々に戻していくことは、防災の観点からも大変重要なことではないでしょうか。そのため今、かつての林相をとり戻す計画を少しずつ進めています。

森がよみがえれば、そこには動物が集まってきます。何よりここは昔からの山ですので、珍しい植物が多いことでも知られているのです。林相を昔に戻すことで、その植生もあり豊かになると確信しています。



鵜戸神宮

〒887-0101  
宮崎県日南市宮浦3232  
TEL: 0987-29-1001  
<http://www.udojingu.com>



豊饒の海と豊かな森に抱かれた鵜戸神宮。橋門から本殿へと続く千鳥橋は特に景色が良い場所で、ここで記念撮影をする参拝者も多い。本殿宮司は境内の散策を日課にしている

ると将来的には信仰だけでなく、自然に親しめる場としても機能できるはずです。昔からの環境を含めて、ここには信仰が生きている。明治以前の鵜戸神宮の姿を知つてもらおうことが、これから世代を育していくことにつながるのです。少しずつではありますが、古い姿に戻しながら地域の観光を良いものにしていきたいと思います。

先日、日南市の商工会議所が中心となつて当社の運玉をモチーフにしたお菓子を開発しました。発売したばかりで認知はこれからなのでが、売り切れることが多く出足は順調のようです。今後はそのような連携にも、積極的に関わって行ければと考えています。